

情報通信技術委員会（TTC） 2020年度「TTC会長表彰」受賞

2020年5月28日、情報通信技術委員会（TTC：The Telecommunication Technology Committee）より2020年度情報通信技術賞の受賞者が発表され、R&D戦略部の榮 浩三が、「移動通信システムにおけるオペレーションシステムの高度化及びコア網仮想化の標準化にかかわる功績」によりTTC会長表彰を受賞しました。

TTCは、情報通信ネットワークにかかわる「標準」を作成することにより、情報通信分野における標準化に貢献するとともに、その普及を図ることを目的としており、その目的に沿う事業の遂行に多大な貢献をした者に対して毎年表彰が行われています。本年度は、情報通信技術賞総務大臣表彰（1名、1団体）、情報通信技術賞TTC会長表彰（6名）、功労賞（15名）、感謝状（1名、2団体）が授与されました。

榮は1996～1998年、ITU-T（International Telecommunication Union-Telecommunication Standardization Sector）においてSDH（Synchronous Digital Hierarchy）*1およびATM（Asynchronous Transfer Mode）*2伝送装置の保守運用管理用オブジェクトの定義策定に貢献するとともに、TMN（Telecommunications Management Network）研究会委員としてTMNの普及活動に貢献しました。1999年からは、第3世代移動通信伝送オペレーションシステム、ALL-IP化された加入者情報管理システムの新規商用導入をリーダーとして実現し、ITU-T、3GPP（3rd Generation Partnership Project）仕様に基づくモバイルネットワークの高度化に貢献しました。続いてTTC、3GPPおよびETSI（European Telecommunications Standards Institute）において、初期段階からコアネットワークの仮想化および第5世代移動通信システム（5G）の標準仕様策定に貢献しました。特に仮想資源管理用のMANO（Management and Orchestration）*3に関しては、検討主体であるETSI ISG NFV（Industry

Specification Group Network Functions Virtualisation）において商用開発経験に基づく仕様提案をリードするとともに、3GPP SA5（Service and System Aspects 5）でも積極的に既存網とMANO間のIF仕様を提案し、両団体間のギャップ発生を阻止することに貢献しました。また2017年からTTC企画専門委員、2018年からTTC業務運営連絡会委員、2019年から一般社団法人電波産業会（ARIB：Association of Radio Industries and Businesses）においてoneM2M主査を歴任し、セミナー講師や司会も含めてTTC、ARIBおよび3GPP間の連携ならびに国内標準仕様の策定に寄与しています。長年にわたるこれらの貢献が認められ今回の受賞となりました。

- *1 SDH：CCITT（現ITU-T）にて標準化された、同期伝送網のデジタル多重化階梯に関する国際規格。
- *2 ATM：マルチメディア通信用に開発された、セルと呼ばれる固定長フレームを逐次転送する通信方式。
- *3 MANO：ETSIによって定められた仮想資源マネジメント機能の総称。

本誌に掲載されている社名、製品およびソフトウェア、サービスなどの名称は、各社の商標または登録商標。

